

地域コミュニケーションデザイン・コーディネータ入門

授業科目名	地域コミュニケーションデザイン・コーディネータ入門	単位数 2 単位
英語標記	How to become a coordinator for local area communication-design	
授業コード	360117	
受講人数	20 人程度	
担当教員	金水 敏	
対象	全研究科大学院生、3 年次以上の全学部生	
開講時間等	第 1 学期＝木曜 5 限（4 月 15 日～）	
開講場所	豊中キャンパス：大学教育実践センターステューデントコモンズセミナー室 2	
キーワード	社会学連携活動、コーディネータ、インターンシップ、カフェ活動	
授業の目的	1. 大阪大学の社会学連携活動の拠点である、「大阪大学 21 世紀懐徳堂」のスタッフとして実際に運営に参加することで、大学の一員として社会と接していく上でのコミュニケーション・スキルを学んでいく。 2. 各種イベントのコーディネータ、プロデューサとして必要となる基礎知識を学ぶ。 3. サイエンスカフェ、哲学カフェ、減災カフェ、アートカフェなど、専門家と非専門家が対話する過程において、専門家の側に求められる態度を具体的に修得する。 4. 自らの専門領域が、いかにして社会に開かれるべきかを考える態度を身につける。	
講義内容	この講座では、座学（講義形式）、実習（インターンシップ）、e-learning（WebCT 上に置かれた課題に答える）、グループワークを組み合わせることで進めていきます。 特に経験は必要なく、将来、自分の専門を生かしながら、その専門分野と社会との関わりを積極的に考えていきたいと思っている学生に履修を勧めます。 下記の予定は目安であり、2 以降は数回ずつ、適宜行き来しながら進めていきます。	
	1. オリエンテーション（授業内容紹介） 2. 大阪大学／21 世紀懐徳堂について学ぼう 3. 21 世紀懐徳堂の運営に携わる（一定時間） 4. 企画提出、グループワーク 5. まとめ	
教科書	なし	
参考書	講義時に適宜紹介する。	
成績評価	出席と課題提出による	
その他	2 学期に、本科目を受講したもののだけが受講できる「地域コミュニケーションコーディネータ実践」が開講されます。できれば、本科目に登録する人は、併せて「地域コミュニケーションコーディネータ実践」にも登録して下さい。	

21 世紀懐徳堂とは

懐徳堂は、1724 年に大坂の町に開かれた学問所ですが、他の藩の藩校などとは異なり、武士と町人の身分の差なく誰でも対等に学べる開かれた学舎（まなびや）として 1869（明治 2）年まで存続しました。懐徳堂からは、当時最先端の哲学・古典学・自然科学をリードする優れた人材が続々と輩出されました。一方、1931 年に我が国 6 番目の帝国大学として出発した大阪大学は、設立の資金を国と民間が出し合い、市民に望まれた大学として誕生しました。それ故に、幕末の蘭学塾である適塾とともに、懐徳堂を精神的源流と位置づけているのです。

2008 年大阪大学は、懐徳堂の精神を受け継ぎ、その知的資源を市民に開いていく拠点として 21 世紀懐徳堂を本格オープンさせました。21 世紀懐徳堂は、大阪大学のすべての社会学連携活動の情報を集約し、ホームページ等の媒体を通じて市民に分かりやすい形で伝えていくとともに、市民からの要望・問い合わせに対応し、市民と大学をつなぐコーディネータとしての役割を果たします。また、「大阪大学中之島講座」[Handai-Asahi 中之島塾]その他、独自の社会学連携活動の運営にも当たります。コミュニケーションデザイン・センターや総合学術博物館等と協力して、サイエンスショップや各種カフェ活動を展開します。即ち、21 世紀における地域市民のセルフラーニングの拠点となることを目指します。

インターンシップの場として

21 世紀懐徳堂は、その運営に、教職員だけでなく学生、保護者、地域の住民の皆さんが参加するという、国立大学にはかつて無かった特色を持っています。この授業の受講生は、正式のスタッフとして、21 世紀懐徳堂の運営に参加します。

何が学べるか

- 自分の属する狭い専門分野に限定されない、大阪大学の歴史、研究・教育活動、社会貢献活動全体について、体験的に学ぶことができます。
- 大学の顔として、市民社会に対応する体験を通して、通常の授業やサークル活動では得られない、高いコミュニケーション・スキルを身につけることができます。
- 座学に加え、各種イベントの実務、企画、運営に携わることにより、地域に開かれた大学の役割を体験的に学ぶことができます。また、コーディネータ、プロデューサの仕事についても具体的に知ることができます。
- 哲学カフェ、サイエンスカフェ等の活動に参加することにより、対話的・双方向的な新しい知識の流通・消費のあり方を知ることができます。

どのように学ぶか

この講義では、講義形式の座学、現地（イ号館ギャラリー、総合学術博物館、中之島センター他）での実習、e-learning（WebCT に置いた課題をダウンロードし、報告をアップロードする）、グループワーク（イベントの企画書作成）等の多彩な学習形式を通して評価を行います。

さらに関心のある人は

この講義は、高度副プログラム「コミュニケーションデザイン」の一部をなしています。関連する講義を取ることによって、修了証が得られます（一部、制限有り）。また、21 世紀懐徳堂の活動には引き続き、ボランティア、TA 等の形で参加し続けることができます。